

真・魅力通信

保幼こ小中一貫コーディネーター：奥村 崇志

袋井あやぐも学園幼小中一貫教育研修会 その3

～分散会での話し合いから見えてきたもの～



特別支援部



- 園の迎えのときに保護者に毎日会えるので、学園で取り組んでいる「ボイスシャワー」「聞く」ことを発信・共有できている。
- 園と小の関係をより密にしていきたい。
- 支援計画・指導計画を次年度に引き継ぐ資料として活用している。
- 校内の特別支援コーディネーターから合理的配慮について作成の依頼や活用方法など伝えている。

授業づくり部



- 子どもの学びの意欲を高めたり、必要感を持たせたりするのに、「?型学習課題」は効果的だと思う。
- 課題がしっかりしていると、対話・振り返り活動の充実につながる。
- Which 型の学習課題もよいのでしょうか？
- ①学びの見通しをもてる学習課題 ②思考を働かせる時間の設定 ③わかった・できたと実感できる振り返り活動 について、それぞれの学校が、①or②or③のうちの一つに、より重点を置いた研修を行っている。
- 授業づくり部が校内や学園内に発信していく場面があると効果的。

生き方部



- 5年生ではアースキッズを行っている。
- 4年生では、エコ授業を行っている。
- 縦割り活動で、お弁当や遠足などが計画されている。
- いいところみつけの実施。担任が見えていないところも、生徒が発信してくれる。
- 修学旅行、防災教育（5年）、世界同時授業の実践。
- 職業に限らず、「どんな大人になりたいのか」という視点が大切。
- キャリアパスポート（小1～高3までの学習をまとめたもの）の活用も考えたい。袋井中では、1枚目は年度当初の目標（なりたい自分になる）5枚目は、年度末に振り返り（振り返りや今考えていること）、2～4枚目は、生徒自身が3枚のワークシートを選んでいる。（自分が成長を感じているもの）
- 総合的な学習の時間では、SDGsの内容を中心に行っている。「中学生として何ができるのか」を考えている所である。3年生の「進路＝自己実現」と捉え、同時に進めている。

○カリキュラムを繰り返し読み込むとともに、他部会の意見や取組を理解することがより良い実践につながります。それが、**子どもたちに還元される**ことが理想です。